



Air Line Pilots'
Association of JAPAN

2020年2月18日
日乗連発第43-08号

広島地方検察庁 検察官殿

日本乗員組合連絡会議
ALPA Japan (Air Line Pilots' Association of Japan)
議長 松本 英晃
<https://alpajapan.org>

要請書

「アジアナ航空「広島空港事故」乗員の刑事処分について」

2015年4月14日に広島空港において発生した、アジアナ航空所属エアバス式A320-200型機の事故（以下「本件事故」という）に関して、日本乗員組合連絡会議（以下「日乗連」という）は、航空の現場で働く乗員の立場から以下のとおり要請いたします。

第1 要請の趣旨

本件事故の運航にあたった乗員について刑事処分の対象とせず、不起訴処分とするよう要請いたします。

第2 要請の理由

1. 私たちの立場－再発の防止

私たちは、民間航空の運航乗務員によって構成される団体であり、航空事故やインシデントについて、何よりも同種事故の再発を防止するという立場に立って活動しております。本件事故の様に明らかに意図的でないヒューマンエラー（過誤）による事故については、事故原因の調査を的確に進めることにより、判明した事故に関連する要因について適確な再発防止策が取られることを追求しています。この見解・基本的視点は国際航空民間条約の第13 付属書（事故調査）に基づくものであり、悲惨な結果を生み出す航空事故の再発防止を目的とするものです。さらにその実現の為、関係者への責任追及（刑事処罰など）を行わない対応が大きな潮流となっています。

事故の当事者に対する責任追及は、事故の原因を究明する為に必要となる、当事者・関係者からの貴重な情報の収集・流通を阻害する要因と成り得ます。なぜなら、自己または他者に対する責任追及の根拠になるような供述や情報の提供には、誰しもが躊躇せざるを得ないからです。この理論に立脚するならば、事故原因の徹底的な解明を実現する為には、意図的ではないヒューマンエラーに対しては責任追及をしないという対応こそが、航空の安全を守るという公共の利益に資すると考えるからです。私たち日乗連もこうした考え方に立って活動しています。

2. 本件事故に至る原因の検討

航空機の運航は、その航空機の設計製造から始まり、運航会社の整備、運航管理、運航乗務員への教育訓練、実際の運航における気象状況や空港施設などの運航環境など、多様な要因が組織的に集積され、高度にシステム化された環境で行われています。そのような環境で事故が起きるにあたっては、1つの事象だけが原因になることは少なく、不安全要素となる多くの事象が重なって、その連鎖の結果として事故が起きることが通常です。

本件について、乗員のヒューマンエラーが介在している可能性は否定できませんが、そのような事故に至る原因事象の連鎖の起点には、乗員への規定遵守に関する教育及び訓練が不十分であったことが運輸安全委員会からも指摘されております。(※1)。

(※1 運輸安全委員会「アジアナ航空株式会社所属エアバス式A320-200型HL7762アンダーシュートによる航空保安無線施設との衝突」事故原因 81頁)

3. 本件に対して運航乗務員の刑事責任を追及することの問題点

本件への刑事責任追及について、私たちは以下の点について危惧しています。

まず、1項に述べた「今後の航空事故再発防止」への悪影響が挙げられます。また、2項で述べたような航空機の運航システム中では、事故に関係する要因として、当該乗務員への教育訓練の内容についての会社関係部署からの情報提供も必要ですし、空港の特殊性(山間部に造成された広島空港における進入方式や気象の特殊性)なども把握したうえで検討がなされなければなりません。そのような検討を経ることなく、当該乗務員への刑事責任の追及が行われるようになれば、今後の事故調査における貴重な情報の集積を阻害する影響は避けられず、将来的な事故調査への悪影響が懸念されます。また、航空機の運航という高度なシステムの一部を構成する運航乗務員の判断や操作についてのみ責任が追及されることになれば、航空機運航の現場は萎縮し、安全の為にコミュニケーションや意欲にも悪影響を与えかねません。

事故の再発を防止し航空の充実を実現するには、運航乗務員の刑事責任追及ではなく、航空機運航のシステム全体を俯瞰した上で、事故再発の防止策を確実に実施することこそが求められていると考えます。

以上の理由から、貴検察庁が本件について起訴することの無いよう、ここに要請するものです。なお、本件事故に関する私たちの考え方について、今後説明する機会を設けていただければ、その場で詳細を述べたいと考えております。

以上